

# 令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月17日  
函館市立赤川中学校

## 1 本年度の重点教育目標

- ・主体的に学び、判断して行動できる生徒
- ・他を理解しようとし、多様な仲間と協働できる生徒
- ・将来に向け、困難や失敗を乗り越えようとする生徒

## 2 本年度の取組の重点

- 【施策1】 ①学力向上……「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善  
②教育課程……恒常的な検証と改善の確立
- 【施策2】 ③豊かな心……校内研修を核とした道徳科授業の充実
- 【施策3】 ④健やかな体…食育の充実や体力向上を図る取組の工夫
- 【施策4】 ⑤安心・安全…安心メール，HPを活用した保護者や地域との連携  
⑥業務改善……教職員における業務改善の一層の推進
- 【施策5】 ⑦学校運営協議会（CS）……地域と連携した取組の推進

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
施策1	①校内で取組を共有し、授業改善を図ることができたか。	a	クロムブックの効果的な活用、小中との授業交流を通して、主体的・対話的で深い学びの視点による授業の検証と改善を図った。	A	A	赤川小学校との授業交流が足りないと感じている。
	②全国学力調査等の分析結果を共有し、教育課程の改善を図ることができたか。	b	家庭学習の習慣や基礎・基本の確実な定着に向けた取組を行った。各小学校と家庭学習強化週間を設定した。クロムブックの持ち帰りによるAIDリルの活用をさらに進めていく。	A	A	
施策2	③心に響く道徳科の授業実践を通して、いじめ未然防止等を推進することができたか。	b	校内研修や小中連携を通して、発問等の工夫や交流を図る中で心の成長を促した。生徒会を中心としたいじめの取組の他、日頃から学級経営においていじめの防止を図っていく。	A	A	
施策3	④食育や運動量増加に向け、昼休みの活用等、教育活動の工夫を推進することができたか。	b	体育祭の種目を団体競技に、授業でもレクの要素を取り入れるなど意識を改善した。全国体力調査の結果を受けて、体力の増強に努めていく。	A	A	
施策4	⑤安心メールやHPを活用し、地域との連携を深めることができたか。	a	HP（ホームページ）と安心メールを積極的に活用することで日々の子どもたちの様子を継続的に伝えることができた。	A	A	
	⑥学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	a	クロムブックの活用（アンケート、テストなど）や、行事・分掌業務の見直しなどを行い、取組の推進を進めた。	A	A	
施策5	⑦CSへの理解を深めるとともに、地域や小中の連携を推進することができたか。	a	分掌や担当（7部門）で小中連携を推進した。2つの部会を生かし、吹奏楽部や総合文化部のお手伝い生徒による地域との連携を通して、CS活動の推進を一層進めることができた。	A	A	赤川町会との連携が若干薄いと感じている。

### ■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

### ■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。